

浜寺聖書教会 メッセージ 2023年4月23日 担当；前山晋吾

タイトル；福音宣教の喜び

聖書箇所；ピリピ人への手紙 1章 12-14 節

命題；聖徒は神の主権と計画によって福音を伝えることができる。

"さて、兄弟たち。私の身に起こったことが、かえって福音を前進させることになったのを知ってもらいたいと思います。"ピリピ人への手紙 1章 12 節

→パウロの投獄が、かえって福音を前進させることになった

"私は、福音のために、苦しみを受け、犯罪者のようにつながれています。しかし、神のことばは、つながれてはいません。ですから、私は選ばれた人たちのために、すべてのことを耐え忍びます。それは、彼らもまたキリスト・イエスにある救いと、それとともに、とこしえの栄光を受けるようになるためです。"テモテへの手紙第二 2章 9～10 節

A.パウロの投獄が福音の前進となった理由（12-14 節）

1.カイザルの親衛隊に福音が伝えられた

"私がキリストのゆえに投獄されている、ということは、親衛隊の全員と、そのほかのすべての人にも明らかになり、"ピリピ人への手紙 1章 13 節

"聖徒たち全員が、そして特に、カイザルの家に属する人々が、よろしくと言っています。"ピリピ人への手紙 4章 22 節

パウロの投獄 キリストのゆえに

2.多くの聖徒に確信が与えられ、福音が伝えられた

"また兄弟たちの大多数は、私が投獄されたことにより、主にあって確信を与えられ、恐れることなく、ますます大胆に神のことばを語るようになりました。"

ピリピ人への手紙 1章 14節

- 1) 多くの聖徒に確信が与えられた
主にあって確信が与えられ
- 2) 多くの聖徒により福音が伝えられた
恐れることなく ますます 大胆に

B.パウロの福音宣教の模範 (12-14節)

1.どのように福音を伝えるのか？

"みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。"

テモテへの手紙第二 4章 2節

"何度もむちで打たせてから、ふたりを牢に入れて、看守には厳重に番をするように命じた。この命令を受けた看守は、ふたりを奥の牢に入れ、足に足かせを掛けた。

真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほかの囚人たちも聞き入っていた。"使徒の働き 16章 23~25節

"ふたりは、「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」と言った。"使徒の働き 16章 31節

いつでも 投獄中 裁判を待つ 死刑になるかもしれない中でも
どこでも 自由のない牢のなかで鎖につながれていても
誰にでも 自分の見張りをしているローマの兵士達に対しても

愛する人達だけでなく、愛しにくい人達に対して、私達はどのようにしているか？

"神は、彼らが悪の道から立ち返るために努力していることをご覧になった。それで、神は彼らに下すと言っておられたわざわいを思い直し、そうされなかった。"ヨナ書 3章 10節

"主は仰せられた。「あなたは、自分で骨折らず、育てもせず、一夜で生え、一夜で滅びたこのとうごまを惜しんでいる。まして、わたしは、この大きな町ニネベを惜しまないでいられようか。そこには、右も左もわきまえない十二万以上の人間と、数多くの家畜とがいるではないか。"ヨナ書 4章 10-11節

ステパノ 主イエス・キリスト

2. どうして福音を伝えるのか？

"私は祈っています。あなたがたの愛が真の知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊かになり、あなたがたが、真にすぐれたものを見分けることができるようになりますように。またあなたがたが、キリストの日には純真で非難されるところがなく、イエス・キリストによって与えられる義の実に満たされている者となり、神の御栄えと誉れが現されますように。"ピリピ人への手紙 1章 9～11節

"一方の人たちは愛をもってキリストを伝え、私が福音を弁証するために立てられていることを認めています、"
ピリピ人への手紙 1章 16節

あなたに与えられた救いの喜び、感謝、神への愛

3. 誰によって福音を伝えるのか？

神の主権と御計画；神はパウロに対する迫害、投獄をも、福音の前進のために用いられた。

"わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。"ヨハネの福音書 16章 33節

"私は使徒の中では最も小さい者であって、使徒と呼ばれる価値のない者です。なぜなら、私は神の教会を迫害したからです。

ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは、むだにはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです。"コリント人への手紙第一 15章 9～10節

"私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。"

エペソ人への手紙 2章 10節

"乏しいからこう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。

私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にある道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。

私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。"

ピリピ人への手紙 4章 11～13節

あなたになにができるかではなく、あなたが神に信頼して用いていただく決心が必要。

福音を伝えるために、神に祈り、神の福音を語り、神にゆだねることができる。

神があなたを強め、福音を語らせてくださる。

聖徒は神の主権と計画によって福音を伝えることができる。

パウロの投獄により、多くの聖徒が主にあって確信を与えられ、恐れることなく、ますます大胆に神のことばを語るようになった。

だから、パウロはピリピ教会の聖徒にも、まず、その素晴らしい神の働きを伝えた。

パウロにとって、多くの聖徒達にとっても、救い主、主イエス・キリストがすべてであった。

"それは私の切なる祈りと願いにかなっています。すなわち、どんな場合にも恥じることなく、いつものように今も大胆に語って、生きるにも死ぬにも私の身によって、キリストがあがめられることです。私にとっては、生きることはキリスト、死ぬことも益です。"

ピリピ人への手紙 1章 20～21節

そして、神の栄光が現された。福音により、人が救われ、変えられた。

ついには、迫害を与えていたローマ帝国そのものが、神によって変えられた。

福音宣教は救われた聖徒であるあなたに与えられている喜びです。

あなたは神にあって、どのように生きる決心をされますか？